歳を取ってもこの街で、住み慣れた家で暮したい

家族以外に頼れる人、あなたにはいますか？

家族の形が変化して、３世代同居は少なくなり、核家族、単身世帯が増加している昨今。それに伴って、高齢者のひとり暮らしも増えている。今住んでいる場所で歳を取っても安心して暮らすために、どんなことが大切なのだろう。

浜松市でおひとり様※１の支え合いを支援する団体「あん」※２を運営する山﨑みえ子さん、伊藤二三(ふみ) さんの話から、これからの支え合いについて考えてみたい。

※１おひとり様　配偶者との死別や未婚によりひとり暮らしをしている人　※２「あん」は「安心」「安価」「安寧」の「あん」に由来する

変化する家族の形

今から約50年前、１９７０年50歳時に未婚だった人は今よりもずっと少なかった。２０２０年になると50歳の女性の約６人に１人、男性の約４人に１人が結婚していない時代になった。

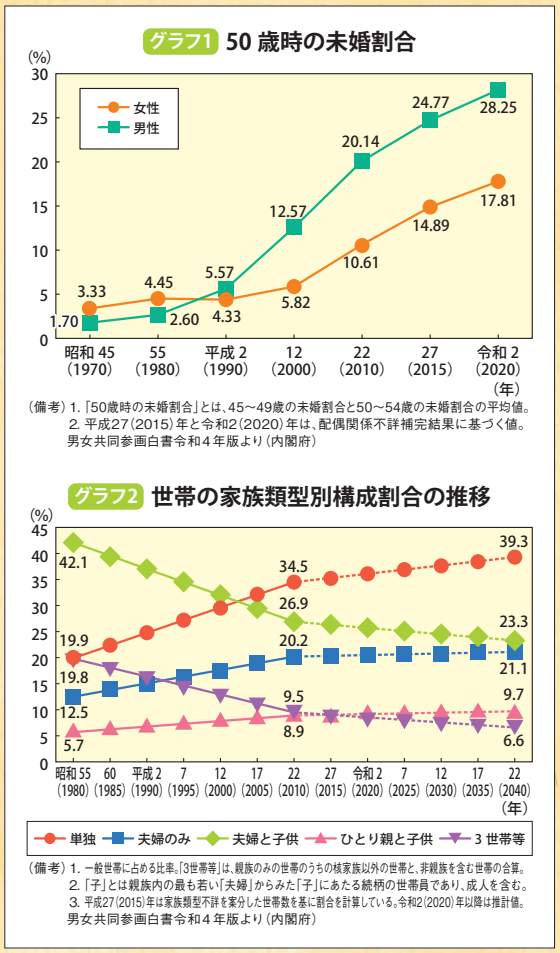
グラフ１

さらに、１９８０年には40％以上を占めていた夫婦と子どもの世帯が２０１０年には大きく減っている。１９８０年に19．８％だった３世代等の世帯は２０１０年に10％以下、２０４０年には更に減ると推計されている。反対に１９８０年には19．９％だった単独の世帯は２０１０年には34．５％を占め、今後も増えると推計されている。

グラフ２

このデータからも、一世帯の家族の人数が減り、ひとり暮らしの人が増えていることがわかる。さらに、女性は男性よりも平均寿命が長いので、今は配偶者やパートナーがいる人でも、将来「おひとり様」になる可能性は大きい。人々の家族観、生活が多様化し、高齢期の暮らし方も以前とは様変わりしたと言える。

山﨑　昭和の時代と比べて地域や家族の在り方はずいぶん変わりました。おひとり様は、今までおおっぴらにできませんでした。日本は、結婚して家庭を持つ、というのが当たり前の世の中だったから。今は、おひとり様が増えてきたことで、社会の中で認識されるようになりました。また、今、「ちえん」が薄くなっています。地域の地縁もそうだし血縁も。家族がいても遠方に離れて暮しているとか、子どもがいても親の世話はできないというように。縁が薄くなったところをカバーできる制度が追いついていないというのも感じます。



顔の見える関係の中での「あん」の活動

今は、企業が高齢者向けに様々なサービスを提供する時代。看取りから死後の手続きまで、お金さえ払えば家族を頼らなくても生前に自ら手続きができる。

このようなサービスを視野にいれつつ、元気なうちはお互いに助け合い支え合いながら、安心して暮らせるような顔の見える関係のグループ作りをしている団体が「あん」だ。

活動の中心は「生前の助け合い」と「死後の準備」。メンバーは、元々山﨑さんや伊藤さんの知り合いで、高齢期の助け合いや制度に関心の高い人が集まっている。

山﨑　７年前に父が亡くなって、手続きをするために母をあちこち連れて行きました。人が亡くなると手続きが大変だなと思いました。じゃあ、おひとり様の私の場合はどうなるかなあと、具体的に考え始めました。成年後見の勉強をしたのもそれがきっかけです。その時の講座の講師が行政書士の伊藤さんでした。伊藤さんに自分の死後事務のことなどを相談に乗ってもらいました。でも、伊藤さんと私は年齢が近いから（笑）。先のことはわからないけど、個人で引き受けるより、団体で死後事務を受ける方がやりやすいんじゃない？　という話になって、「あん」という団体を考えました。

伊藤　お金を出せば死後事務をやってくれる企業や団体はあります。

山﨑　「あん」では、メンバー同士が、買い物などの助け合いを、リーズナブルな価格でボランティア的な気持ちでやれたらと。誰かのためになるのは生きがいになりますよね。お互い様、ギブアンドテイクでできることはやりたい。買い物をしてほしいとか、会ってできることは「あん」で引き受けたいと思っています。人手が足りなくて手伝ってほしい、というようなこ

とも。まだ「あん」のメンバーはみんな元気だし働いていて忙しくしていますから、そういう需要はでてきていないです。本当に助けの手が必要になるのは5年後、10年後です。

「あん」の定期的な活動の一つに『LINEのグループメール機能』を使って、毎週日曜日の安否確認がある。「お元気LINE」と名付け、メンバーが書き込みをすることで元気にしているかの確認をするものだ。その日に書き込みが無かったメンバーには何らかの方法で連絡を取り、安否の確認をしている。また、このLINEを上手く使い、制度や講座、書籍などの情報提供も行う。

伊藤　メンバー内から、「助けて欲しい」という人が出てきて、LINEに書き込んでくれれば「私が行くよ」と他のメンバーが手を挙げてくれる。そんな会にしていきたいです。

勉強会

そしてもう一つの活動の柱が、月1回の勉強会を兼ねた定例会だ。

山﨑　実は、「あん」を名乗る前に1年ほど、別の団体で同じようなことをやっていました。

伊藤　その団体も「あん」と同じように月に1回集まって、これから必要になる介護や成年後見などの制度の勉強やおしゃべりとかをしていました。勉強よりもみんなで集まっておしゃべりするという要素の方が大きかったです。仲間と定期的に会うというのが楽しみのひとつみたいでした。

メンバーの中には成年後見について勉強したい人が半分ぐらいいます。もともとはそれがきっかけで集まったメンバーですから。親が認知症になったので制度のことを知っておきたいと言う人もいます。勉強会だけでなくおしゃべりを楽しみにしてくれてもいます。信頼関係を作るのにそういう場も必要だと思います。

山﨑　おしゃべりの中でその人のこれまでの暮らしぶりもわかりますし。大切ですよ。

伊藤　最近はコロナの流行もあって、いろんな計画を立てましたが実現できずにいます。

山﨑　霊園の見学とか、カーシェアリングの勉強もやりたいです。

おひとり様の死後

山﨑　家族がいる方は、よりどころとしてのお墓が欲しかったりしますよね。私みたいなおひとり様は散骨でいいんです。今は散骨をしてくれる業者もありますし。

伊藤　でも、その業者に電話を掛けてくれる人が必要なんです。契約は事前に自分でやっておくけれど、亡くなった連絡や、散骨場所まで骨を運んでくれる人が必要なんです。今後それを「あん」で引き受けるか、どこまで業者に頼むかという話もあります。

山﨑　契約はできるけれど、死んでしまった後のことは自分ではできません。

伊藤　死後事務の一つとして、それを実行する人が必要なんです。遺言状は財産分けしか効果がありません。どこに散骨してほしいとか、どの業者に頼んでほしいとかは、死後事務委任契約やエンディングノートの領域です。

山﨑　さらにおひとり様の場合は家が残っていますので、片付けや遺品の整理諸々があります。それをやってくれる人も絶対に必要。だから今、そこまで考えて断捨離をしています。

新聞やニュースで取り上げられる高齢者に関する事件は、たいてい当事者が孤立していてどことも繋がっていなかった、というケースが多いです。大変なことになる前に、「頼って良いよ」と言ってくれる人がいたらありがたいですよね。やはり元気な時から、これからどうするのかを考えておいてもらいたいです。自分の事が自分でできるうちはなんとも思わないけど、いつまでもできるわけではないですから。

高齢期に頼りたい制度ではあるが

介護保険制度や成年後見制度など、名前や仕組みは知っていても、いざ利用しようとなるとわからないことや戸惑うことがある。制度の勉強をしながら、実際に使ってみてどうなのか、メリットやデメリットなど、知りたいことはたくさんある。

山﨑　制度に関しては伊藤さんが行政書士なので、いろいろ教えてもらえます。非常に助けてもらえています。

伊藤　死後事務委任契約や亡くなった後の手続き、任意後見契約など、制度を使いたいおひとり様がメンバーの中にいて、契約を結ぶお手伝いを前の団体でもやっていました。

山﨑　みんなで集まって話しても、「どうすればいいんだろうね?」で終わってしまうところですが、行政書士がメンバーにいることで、「ここはこうしたらいいですよ」「ここに行って手続きができます」とアドバイスがもらえ、次の一歩が出てきます。

山﨑さんと伊藤さんは今後、「あん」と平行して行う活動として、法人の立ち上げを考えている。メンバー個人間で受けた契約が履行できない事態を防止し、責任のある法人として契約を履行するためだ。顔の見える関係を作りながら、お互いに支え合う仕組みの充実を図る予定だ。

★死後事務委任契約　自分が死んだ後の葬儀、納骨、埋葬、遺品整理などの手続きを、生前に第三者に委任する契約。相続は対象外

勉強会の様子

あとがき

人生100年時代とはいうが、歳を取ると金銭面や生活面、体調など様々なことで心配や不安に思うことも多い。高齢になってもひとり暮らしでも自立した生活をするためには、社会や他者との繋がりがあることが欠かせないと、今回話を聞いて実感した。家族以外にも頼れる人、グループがあることは、大きな安心感に繋がる。顔が見える関係、信頼できる仲間は、いざというときに大いに頼りになるはずだ。制度や仕組みを使いながらも、足りないところを仲間で助け合い、補い合う、これからもずっと住み慣れた場所で暮すためのヒントが今回の話にはたくさんあった。誰にでも、いずれ、生き方の方向転換やシフトチェンジをする時がくる。向かう先のことを視野に入れながらの人生100年時代の支え合いについて、改めて考える機会になった。

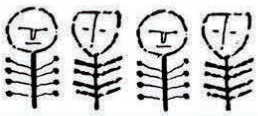
（國井良子）

「ねっとわぁく」アーカイブ

過去の「ねっとわぁく」を現編集員が読んでコメントする“アーカイブ”。
今回は 12 号より「亭主関白」がテーマです。
35 年経った今の夫婦の関係は、変わったのか変わっていないのか。みなさんはどのように感じますか？

スクランブル

拝借いたします……



好ましい？

今、男女の平等が盛んに言われているのに、或る調査によると、静岡の主婦の約六割は自分の夫のタイプが「亭主関白だと思っている」そうだ。さらにそれを「好ましいと考えている」主婦が五割もいるとか。私はびっくりしてしまった。

家庭を支えているのは自分で、妻や子は常に従うものと思い、家庭で何かあれば、すの方が図太くなりますから、適当にやってます。

（60代　主婦）

建て前と本音

男のこけんにかかわるからと、夫に会社の人がきた時は「亭主関白」きどりさせてくれと頼まれたが、実際は「かかあ天下」の家が多いのでは……

（30代　主婦）

時の流れのままに

人をたてるという意味ではいいことだと思います。私たちはそういう教育をさせられてきましたから。でもね、長いことたつと、私

大切な柱だもの……

亭主関白と言っても、今のお若い方はあまり御主人を大切にしていない様に見えます。時代と思いますが、私達とは、かなり夫婦関係が違います。まあ、うまくいっていればいいのでしょうが、亭主関白であっていいと思います。家には大切な柱がなくてはいけません。

（60代　主婦）

女の甘え

女性の社会参加は、女性がその回りにその為の条件を整備してもらって行うものと思うのは、女性の考えの甘さだと思う。

その為の第一段階としては、女性自らが家事も育児もやり、自分で時間を作り、努力してその実績を重ねることが必要であろう。その実績が社会的評価を受けることで状況が変化していくのであって、亭主関白のせいで社会参加ができないのではないと思う。

（40代　男性公務員）

亭主関白にあこがれます

亭主関白に賛成か反対かと言われると、正直言って困ってしまう。なぜなら、私は亭主関白のタイプの男性にあこがれているから。男はやっぱり強くなくちゃ。

（20代　結婚を夢みる女性）

亭主関白の方がラク？

亭主関白が好ましいかどうか、結婚していない私は今まであまり考えたことはないけれど、確かに人に考えてもらって、人の言う通りにするのは、自分で考えたり、判断するより楽だし、責任もないから、好ましい〟と考える人が多いのもわかるような気がする。でも、これから自分の意見を持った女の人はふえると思う。亭主関白を通せる男の人が減るんじゃないかと、そういう男の人達の事を心配してしまうなあ。

（20代　未婚女性）

いばらないで

亭主関白なんて問題外。妻の力添えなくしては、一日だってやっていけないのに、お金を稼ぐからといって威張るなんて、人間として価値判断が間違っている。妻の人権を認めない夫となんて、一緒に暮していけないわ。

（40代女性　会社員）

① 「亭主関白」も「かかあ天下」もすでに死語。今の時代、建て前も本音も関係なく、お互いを尊重できる婚姻関係を求めている人が多いんじゃないかなあ。（私的には結婚してもしなくてもいいし、事実婚だって同性婚だっていい）パートナーとの対等な関係が大切！

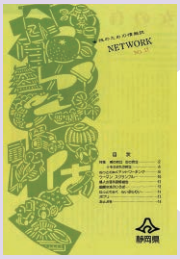
② 人をたてる＝亭主関白……そう言えば、よく母が「いばらせてあげてるのよ」と父のことを話していました。亭主関白のように見せていたけど、実際はそうでもなかったなあ。でも、今の自分にはこの感覚ないですね。

③ ？何を言っているのか、さっぱり理解できない。男性社会にあぐらをかいた意見か何かだろうか。今でも同じ考えでいるとしたら末恐ろしい、と感じる。

④ 責任回避をする生き方の何が「楽」なのか疑問。主体性のない生活に魅力を感じることはない。

⑤ お金を稼ぐからと言っていばるのは、今でいうモラハラ？　というと、今も存在することなのかも……。

※ねっとわぁくバックナンバーは、あざれあ図書館室及びポータルサイト「あざれあナビ」で閲覧できます。
https://www.azarea-navi.jp/netwaaku/



1988（昭和63）年
3月発行 第12号
特集
男の自立　女の自立

⑥父親像、母親像への発言が自由すぎる。根底は子どもは親の言うことを聞いて当たり前……という感覚か。子どもに好ましいかどうかは本当に疑問。

⑦ とことん話し合うって、いいなと思う。
歩みよって、より良くしていく取り組みは、建設的で理想的だと感じる。
夫妻の間だけでなく、人間関係全般に必要だと思う。

ウーマン
……ちょっとお耳を

亭主関白が

ぐ妻のせいにする夫。妻が外に出ていくことも喜ばない……。
夫婦は主とか従ではなく、対等なはず。
「亭主関白」の夫と、それを支持する女性がいる限り、世の中なかなか変っていきそうにないなあ！
（理想を失ないたくない三十代）

ビシバシいこう！

子供の教育を考えると、両親がそろってうるさくしつけるのは、決してよくないと思う。いつもガミガミ言う母親と、たまにビシッと決める亭主関白的父親がいることが、子供にとって一番好ましい。
（30代　男性会社員）

男尊女卑の名残り

亭主関白は、日本に古くからある男尊女卑の名残りではないでしょうか？　夫婦は互いにゆずり合い又尊敬し合い、時には意見を戦わし、生活をしていくべきだと思います。しかし、現状では、まだ社会の中で女性だからというような差別があるのは残念な事です。
（40代男性　自営業）

見栄っぱり

静岡のひとが「亭主関白」を好ましい、などと言うのは見栄っ張りだからだと思う。そうしておけば、自分の気の強そうなところがかくせるから。実際は奥さんの方がずっとしっかりしている。夫が仕事をめいっぱいして、家庭の心配もしていたら、早死にするよ。
（50代男性　会社員）

ちょっとからかう気持で

今の若い夫婦では、「うちは亭主関白なのよ。」と言いながら、結構妻の方がいろいろな決定権を持っていて強い場合が多いように思う。若い人が「亭主関白」という言葉を使う時、夫をおだてるような気持ちが裏にあるんじゃないでしょうか。
（20代　主婦）

我が家のライフスタイル

結婚歴三年、息子が一人のごく平凡な家庭を持っています。「亭主関白」という言葉の存在は知っていたけど、日常意識をしたことはありません。「かかあ天下」も同様です。家事については、夫の協力なしには成立たない程になっていますし、家族の問題については、夫婦でとことん話し合うことにしています。「夫の人生・妻の人生・息子の人生・それぞれ歩みより、打開策を見つけていこう」これが私達夫婦のライフスタイルです。
（20代　共働きの女性）

男のロマン女のロマン

二人の人間が一緒に暮らすのだから、どこかで折り合わなければならない。相手の嫌うことはやらないように心がけてきたら、いつの間にか時代遅れの専業主婦。もっと火花を散らして戦ってみた方がよかったのか、と思ってみるが、しかしうちは亭主関白というのともちょっと違って、これは男の「ロマン」なのだ。ロマンに付き合おうときめた。これは女の「ロマン」、我が家はリッパな関白亭主。
（40代　時代遅れを自認する女）

今、はやりの異業種交流？
イイエ、女たちのねっとわぁきんぐを強めるために、男も女も理解しあうために、あえて本音のぶつけあい。サンセイ・ハンターイご意見およせください。
わかり合うってすばらしい。

— 11 —

ひとこと

柳　采延（りゅう　ちぇよん）さん
（常葉大学　外国語学部　グローバルコミュニケーション学科　講師／専門分野：韓国地域研究、社会学、ジェンダー）

1988 年から 35 年後の今、どの程度変わったのでしょうか。「男を立てるけど実際は女の方が実権を握っている」「男性を立て、手のひらで転がすのが賢い女性」というような言葉は少し前までもよく聞くものでした。そういった言説は男性には変化を求めないし、結局は家父長制を維持させるものです。今は「性役割に捉われず対等な関係」が建前上は当たり前とされながらも、社会生活基本調査をみると共働き夫婦でも夫の家事育児時間は妻の4分の1以下で、性別役割が維持されていることが分かります。男女賃金格差の解消や女性の経済的地位の向上、異性愛規範の解体などが根本的には必要と思いますが、男女夫婦は家庭内の関係や役割について交渉を怠らないことから社会を変えることにつながるのではないでしょうか。

【全体について】
- 性別役割に囚われた考えが言葉の端々に見て取れます。今、性別役割を意識しながら過去のねっとわぁくを読む私たちの意識は、男女平等へ向かっていると信じたい。

⑧その夫婦だけでロマンを語り合ってもらうのであればよいが、問題はそこに子育てが絡んだ場合。親の価値観が子どもに無意識のうちに刷り込まれていてはいつまでも世代間連鎖。やっぱり勉強していかないと!

あざれあ図書室にある おすすめの本を紹介します!

『あんしんの種』
（NPO法人多世代交流館になニ～ナ　2009年）

中越地震を機に始まった市民団体のコミュニティ「になニ～ナ」。被災体験から見つけた最大の財産は、“モノ”ではなく地域や人との“つながり”でした。子育て世代が持ち寄った小さな安心が詰まった1冊です。

『ひとりの老後」はこわくない』
（松原惇子　海竜社　2007年）

シングル女性が最後まで安心して老後を暮らすための活動を行う団体「SSSネットワーク」の代表を務める著者。活動を通じて見聞きしたことや学んだ知恵と知識など、ひとりの老後を送るうえでの解決策をまとめました。

利用案内

貸出：図書・雑誌10冊、ビデオ・DVD4本（3週間）
※貸出カードが必要です。現住所、生年月日を確認できる本人確認書類をお持ちのうえ、カウンターにてお申込みください。
開室時間：平日9:00～18:00、土日祝 9:00～17:00
休室日：第1・3・5日曜日、図書整理日、年末年始
TEL:054-255-8763　FAX:054-255-8759

編集員募集　4/10(月)締切

募集人数／若干名
仕事内容／男女共同参画の今を知る情報誌「ねっとわぁく」（年2回発行）の企画・取材・原稿案の作成・編集から発行まで
任　　期／2023年5月～2024年3月
編集会議（会場：あざれあ）を10回程度行います。
会議は平日昼を予定（変更の可能性有）
※提出書類等詳細は、WEBサイト「あざれあナビ」をご確認ください。
問合せ先／あざれあ交流会議グループ
TEL：054-250-8147（平日9時～18時）
Email：info@azarea-navi.jp

編集後記

左から　其田育子　國井良子　望月富美代　佐藤みゆき

●3月1日から「静岡県パートナーシップ宣誓制度」が始まった。居住している県で、ジェンダー平等が進み、性の多様性が認められるのは、本当にうれしい。性的マイノリティだけでなく、誰もが自分らしく生きることができる社会を目指しましょう。
（編集長　國井良子）

●年長者は若い人にとても影響力があるのだと改めて気づきました。年長者でも知らないことが、あっていい。教えてほしいときは聞けばいいだけなんですね。座談会で大学生の価値観を聞かせていただき、実は自分たちが本当に伝えたかったことは受け継がれている?とうれしくなりました。　（佐藤みゆき）

●他人の配偶者に対して「旦那、嫁」ではなく、「パートナー」という言葉を使うよう意識しています。けれども、鼻で笑われたり、不思議そうな顔をされたり……。まだ、使い続けるには勇気のいる日々です。
（其田育子）

●企画提案から記事になるまで、取材協力してくださる方はもちろん、多くの方々の協力があって、読者の皆様にお届けすることができると実感しています。編集員だからこそ、貴重な体験ができたことに感謝しています。　（望月富美代）

富国有徳の美しい“ふじのくに”
静岡県
Shizuoka Prefecture

ねっとわぁく
2023/3/14 Vol.79

静岡県男女共同参画ポータルサイト あざれあナビ
あざれあナビSNS

「ねっとわぁく」は年1～2回発行します。県内の男女共同参画センター、市町役場、図書館などの公共施設で配布しています。「ねっとわぁく」のバックナンバーは、あざれあ図書室や静岡県男女共同参画ポータルサイト「あざれあナビ」で閲覧できます。
あざれあナビ　https://www.azarea-navi.jp/

発行日/令和5年3月14日
企画・編集・発行/あざれあ交流会議グループ
〒422-8063　静岡市駿河区馬渕1丁目17-1
TEL/054-250-8147　FAX/054-251-5085
編集長/國井良子
編集員/佐藤みゆき　其田育子　望月富美代
印刷/星光社印刷株式会社
静岡県